

留萌市立病院は

経営改革に取り組んでいます

平成21年度 改革プランの進捗状況

2月5日に留萌市立病院経営改革推進委員会が開催され、平成21年度の留萌市立病院改革プランの数値目標に対する実施状況などについて報告を行いました。
今回は、その概要をお知らせいたします。



実質単年度収支の状況

平成21年度は改革プランの計画額が未達成

平成21年度の実質単年度収支（市からの特別な支援などを除いた病院単独での収支）は、平成20年度の5億5千万円の赤字から3億4千万円の収支改善となりました。
しかし、改革プランで見込んでいた5千2百万円の黒字化には及ばず、実質単年度収支は2億5千万円の赤字となる見込みです。（予算上は市の繰入金により1千5百万円の黒字を見込んでおり、実際には新たな赤字は発生しません）

これは、医師の確保が不調に終わったことに加え診療体制の維持や今後の医療確保につなげるため、常勤の医師と比べ割高となる出張医に頼らざるを得なく、経費が増加したことなどが主な要因です。

平成22年度については、これまでの医師確保に向けた取り組みが功を奏し、プランで見込んでいた固定医の確保にめどが立ち、収益の増収とさらなる経営改革を行い4千8百万円の黒字化を見込んでいます。

平成21年度の経営改善策 職員給与削減や患者数増加 による収入増などで経営改善

収支改善3億4千6百万円の内訳については、職員給与費独自削減（一律△20%）による改善額は、1億7千8百万円となる見込みです。
また、固定医（特に脳神経外科）の確保と患者数増などによる改善額は、1億4千8百万円となる見込みです。
施設管理費（光熱・燃料費）の削減による改善額は、2千6百万円となる見込みです。

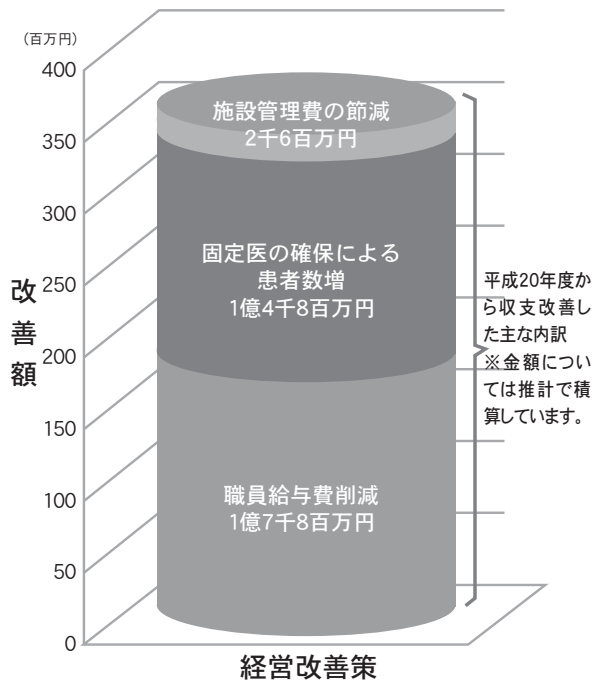
不良債務の推移

平成21年度は不良債務の額を8億円まで圧縮

留萌市立病院の不良債務は、平成13年度以降、度重なる診療報酬のマイナス改定や、派遣医師の引き揚げによる診療体制の縮小を要因とした収入の激減によって、徐々に増加し、平成20年度末では、33億円にまで膨れ上がるところでした。

このような状況を踏まえ、単年度収支均衡と平成27年度での不良債務解消を目的とした「留萌市立病院改革プラン」を平成21年1月に策定し、

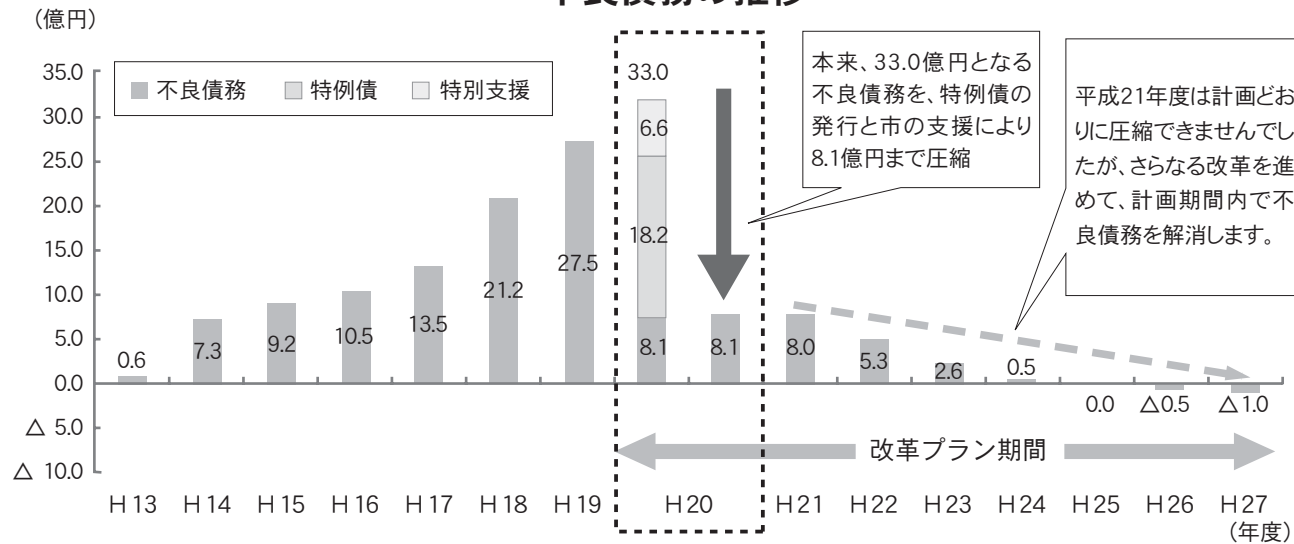
平成21年度の主な改善策



平成20年度においては公立病院特例債（18億2千万円）の発行と、不良債務解消のための市からの特別な繰入金の前倒し（6億6千万円）により、不良債務の額を8億1千万円まで圧縮しました。
平成21年度以降についても着実な改革プランの実施により、不良債務の段階的解消が求められているところであり、平成21年度については2億7千万円の圧縮を計画していましたが、1千5百万円の圧縮にとどまり不良債務の額は8億円となる見込みです。

お問い合わせは
留萌市立病院
☎ 49・1011

不良債務の推移



実質単年度収支

